

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス つくしんぼ			
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 16日		～	令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	24
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 16日		～	令和7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画書に対する保護者の理解と評価の高さ	<ol style="list-style-type: none"> 保護者との丁寧なコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> 計画書作成時の面談を丁寧に実施し、保護者の意向や家庭での困りごとをしっかりと聞き取る。 計画書の内容を専門用語ばかりにせず、わかりやすい言葉で説明し、具体的な支援内容が伝わるようにしている。 保護者が「言いたいことを言うる」雰囲気を作るため、日頃から信頼関係を築くことを意識している。 計画書の見直し・フィードバックの充実 <ul style="list-style-type: none"> 定期的に支援内容の振り返りを行い、必要に応じて計画書を更新している。 計画書の進捗や子どもの成長をこまめに保護者に伝え、「実感できる変化」を共有する。 計画書だけでなく、連絡帳や面談時に子どもの成長のエピソードを伝え、保護者が「支援の成果」を実感しやすいようにしている。 	<ol style="list-style-type: none"> 保護者の意見をより反映しやすい仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> 計画書の作成・見直し時、面談や担当者会議を開き、保護者の意見をより反映しやすくする。 面談以外でも気軽に意見を伝えられるよう、連絡帳やLINEをさらに活用していく。 保護者向けの情報提供を充実させる <ul style="list-style-type: none"> 計画書の内容に関連した家庭での関わり方のヒントや事例紹介を提供する。 「なぜこの支援が必要なのか？」をより具体的に説明し、家庭でも支援を実践しやすいようにする。 職員のスキルアップ <ul style="list-style-type: none"> 計画書作成の質をさらに向上させるため、職員向けの勉強会や事例検討会や説明を仕方を学ぶ機会を作る。 他事業所の取り組みも参考にしながら、より効果的な計画書の作成方法や説明の仕方を学ぶ機会を作る。 保護者と事業所の「協働」を意識した取り組み <ul style="list-style-type: none"> 家庭と事業所が一体となって子どもを支援できるよう、支援計画の進捗を共有しながら、具体的な協力方法を話し合う場を設ける。
2	課外活動、社会体験が多く充実している	<ol style="list-style-type: none"> 多様な体験の機会を提供 <ul style="list-style-type: none"> 公園や科学館、商業施設など、実生活に役立つ場所での活動を意識的に企画している。 季節ごとのイベント(夏祭り、クリスマス会、お花見など)を取り入れ、子どもが楽しみながら学べる環境を整えている。 事前の準備と安全対策の徹底 <ul style="list-style-type: none"> 子どもが安心して活動できるよう、事前に場所の下見やリスク管理を行っている。 外出時のルール(交通マナー、集合時間の確認など)を事前に伝え、社会性を学ぶ機会としている。 必要に応じて、視覚支援(写真やイラストでの説明)を活用し、活動内容を事前に理解しやすくしている。 子どもの「できること」を広げる支援 <ul style="list-style-type: none"> 買い物体験や電車・バスの乗車体験を通じて自立に向けたスキルを身につけられるよう工夫している。 活動後に振り返りを行い、子ども自身が「できたこと」「楽しかったこと」を言葉にする機会を作っている。 保護者への情報共有 <ul style="list-style-type: none"> 活動の様子を写真で記録し連絡帳やホームページなどで保護者に共有している。 「どんな成長が見られたか」を具体的に伝え、家庭でも話題にしやすいようにしている。 	<ol style="list-style-type: none"> 活動の幅を広げる <ul style="list-style-type: none"> 地域の施設や企業と連携し、職場見学や体験学習(農作業・工作体験など)を取り入れる。 より高学年の子ども向けに、バスや電車を使った移動体験の機会を増やす。 子ども自身が企画に関わる機会を作る <ul style="list-style-type: none"> 子どもが「行きたい場所」や「やってみたいこと」を話し合い、活動内容を定める場を設ける。 活動の振り返りをより充実させる。 <ul style="list-style-type: none"> 活動後に簡単なアンケートを行い、「どんなことを学んだか」「次は何をしたいか」を記録する。 事業所内に写真付きの「活動記録ボード」を設置し、振り返りや思い出を共有できる場を作る。 保護者との連携を深める <ul style="list-style-type: none"> 保護者も参加できる社会体験イベント(親子でのクッキング体験など)を企画し、家庭でも経験を生かせるようにする。 保護者へのアンケートを実施し、「こんな体験をさせたい」などの意見を取り入れる。
3	家庭的な雰囲気、場所の提供	<ol style="list-style-type: none"> 子どもが安心できる環境づくり <ul style="list-style-type: none"> 少人数対応や個別の関わりを大切に、子ども一人ひとりが落ち着いて過ごせる雰囲気を作っている。 職員が笑顔で迎え入れ「おかえり」と声をかけるなど、家庭の様な温かい関わりを意識している。 子どもの好きなものや得意な事を把握し、リラックスできる時間や活動を提供している。 職員の関わり方の工夫 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの話にじっくり耳を傾け、否定せずに受け止めることで安心感を持たせる。 言葉だけでなく、表情や仕草にも気を配り、子どもが安心して気持ちを表現できる環境を意識している。 叱るのではなく、共感しながら導く関わり方を大切にする (例:「どうしたの?」と気持ちを聞く)。 保護者との連携を大切にする <ul style="list-style-type: none"> 保護者との連絡をこまめに行い、子どもが事業所でも家庭でも安心して過ごせるよう配慮する。 送迎時に短い会話を取り入れ、保護者が気軽に相談しやすい雰囲気を作る。 	<ol style="list-style-type: none"> 子どもが「自分の居場所」と感じられる工夫 <ul style="list-style-type: none"> 「自分専用のスペース」や「作品を飾るコーナー」を設置し、子どもが安心できる場所を増やす。 子どもたちが一緒にルールを考え、「自分たちの居場所を作る」経験を通じて愛着を深める。 家庭的な活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> おやつ作りや簡単な料理、掃除や片付けを取り入れ、家庭的な体験を楽しみながら学べる機会を増やす。 子ども同士が協力できる遊びや活動(ボードゲーム、工作、共同制作など)を企画し、自然な交流を促す。 保護者との関わりを深める <ul style="list-style-type: none"> 「わかばCAFÉ」など保護者同士が気軽に交流できる場を設ける。 家庭と連携し、子どもが「家でもやってみたい!」と思える活動を共有する。 より温かみのある環境づくり <ul style="list-style-type: none"> 季節ごとの装飾やイベント(七夕、クリスマスなど)を取り入れ、日常に彩りを加える。 インテリアを工夫し、よりリラックスできる空間づくりを意識する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラム(ペアトレ)や家族参加できる研修会や情報提供の機会等が不十分。	<ol style="list-style-type: none"> 人的・時間的リソースの不足 <ul style="list-style-type: none"> スタッフの業務負担が大きく、家族支援プログラムや研修会の企画・運営に十分な時間を確保できていない。 家族支援に関する専門知識を持つ職員が少なく、プログラムの立案や実施が難しい。 家族の参加率・関心のばらつき <ul style="list-style-type: none"> 保護者の仕事や家庭の事情により、全員参加の研修等の開催は難しい。 家族ごとに支援ニーズや関心の度合いが異なり、統一的なプログラムの企画が難しい。 	<ol style="list-style-type: none"> 柔軟なプログラム設計 <ul style="list-style-type: none"> 個別相談の機会を増やし、各家庭のニーズに応じた支援を提供する。 事業所内での「ミニ勉強会」や「交流会」など、気軽に参加できる形のイベントを試みる。 情報提供の充実 <ul style="list-style-type: none"> 事業所のLINE公式アカウントを活用し、定期的に支援情報を発信する。 事業所内に「家族支援コーナー」を設け、役立つ資料やパンフレットを常設する。 既存の支援期間(発達センター、学校、医療機関など)と連携し、他機関の研修情報も共有する。 参加しやすい環境づくり <ul style="list-style-type: none"> 保護者が集まりやすい時間帯(夕方や土曜日)に研修を設定する。 事業所内で子どもを預かる体制を整え、保護者が研修に集中できるようにする。 先輩保護者の体験談を交えた交流会を企画し、学びの場への参加ハードルを下げる。
2	子どもにわかりやすい構造化された環境や事業所の設備等を、障害特性に応じたバリアフリー化や情報伝達等への配慮が不十分。	<ol style="list-style-type: none"> 環境整備に関する認識の不足 <ul style="list-style-type: none"> 現在の環境がどの程度子どもにとってわかりやすく、適切であるかの評価が十分に行われていない。 スタッフ間で「構造化された環境」や「バリアフリー」についての共通理解が不足している。 物理的・設備面での制約 <ul style="list-style-type: none"> 施設のレイアウトやスペースの都合上、動線や視覚的な区切りを十分に作れていない。 	<ol style="list-style-type: none"> 構造化された環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> 活動スペースの区分を明確にし、「学習エリア」「遊びエリア」「休憩エリア」などのゾーンをわかりやすくする。 子どもが活動内容を理解しやすいように、写真やイラストを使った掲示物を増やす。 バリアフリー化の推進 <ul style="list-style-type: none"> 扉の開閉やトイレの利用など、身体的不安が少ない設備の導入を検討する。 情報伝達方法の工夫 <ul style="list-style-type: none"> 指示を出す際は「言葉+視覚情報(ジェスチャーや指差し)」の組み合わせを意識する。 予定の変更がある場合は、事前に視覚的に知らせる工夫を行い、不安を軽減する。 職員の理解を深める研修・話し合いの機会の増加 <ul style="list-style-type: none"> 「構造化」「バリアフリー」「視覚支援」に関する研修を実施し、スタッフ全体の知識を向上させる。

3	<p>保護者同士やきょうだいの交流の機会等のイベント開催が不十分。</p>	<p>1. 人的・時間的リソースの不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの業務負担が大きく、保護者やきょうだい児向けの交流イベントを企画・運営する余裕がない。 ・既存の支援活動を優先する中で、交流イベントの必要性を強く認識できなかった。 <p>2. 保護者・きょうだいの参加ハードル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きょうだい児がい年齢の子と関わる機会が少なく、どのような形の交流が適切か分かりにくい。 ・交流の目的(情報共有・息抜き・学びなど)が明確でなく、参加の動機づけが弱い。 <p>3. 情報発信や周知不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所が保護者同士の交流の場を提供できることを、十分に伝えられていない。 ・既存の情報提供が個別支援に偏り、家族全体のサポートとしての交流機会が不足している。 	<p>1. 参加しやすい形式のイベント企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け： <ul style="list-style-type: none"> ・「わかばCAFÉ」「保護者会」など、負担なく参加できる場を設定する。 ・事業所の行事や活動参観の際に、短い時間でも保護者同士が交流できる時間を設ける。 ・きょうだい児向け： <ul style="list-style-type: none"> ・「きょうだい児びための遊びのイベント」を開催し、同じ立場の子ども同士が安心して交流できる時間を設ける。 ・保護者の支援とセットで、きょうだい児が参加しやすい機会を増やす。(例：「親向け研修+きょうだい児交流会」) <p>2. 情報発信の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所のLINEや、わかばだよりなどで、交流の重要性や参加しやすいイベント情報を発信する。 ・交流イベントの目的やメリットを明確に伝え、保護者が「参加してみたい」と思えるようにする。 ・過去に参加した保護者やきょうだい児の声を紹介し、参加しやす雰囲気を作る。 <p>3. 定期的な振り返りと改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の声を聞きながら、イベントの内容や開催頻度を調整する。 ・「どんな交流の場が求められているか」をアンケートや個別の聞き取りを通じて把握する。
---	---------------------------------------	---	---